

## 金剛萱遺跡の旧石器文化3—2017—

Palaeolithic Culture of the Kongokaya site Part 3, 2017

金剛萱遺跡研究会\*1

Kongokaya site research group

キーワード：旧石器時代，石器，発掘，無斑晶質安山岩，八風山安山岩

Key words : Palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, Happusan andesite

### はじめに

本書は、金剛萱遺跡における2017年分の調査概報である。調査は、金剛萱遺跡研究会が下仁田町教育委員会の指導・協力を受けて実施した。調査によって出土した諸資料は、下仁田町自然史館で保管している。

下仁田ローム層上部層まで削られた切り通しの作業道で発見された。2011年～2013年の発掘成果は、金剛萱遺跡研究会(2016)に、2015年～2016年の発掘成果は、金剛萱遺跡研究会(2017)に報告した。本報告は2017年4月(第6回)と同年10月(第7回)の発掘調査の成果を記載する(第1表)。

### 調査の経過

金剛萱遺跡は2007年8月にその存在が知られ、2009年4月に遺跡であることが判明し、金剛萱遺跡研究会が結成された。2009年11月の調査で旧石器時代から縄文時代の遺物散布地が広がっていることが推測され、下仁田町教育委員会が金剛萱の北麓の平坦な緩傾斜地から山頂まで含めたエリアを金剛萱遺跡として埋蔵文化財包蔵地に登録した。

林道地点は2011年5月に大露頭より1段高い緩傾斜地の中で

### 遺跡の環境

下仁田町は地質上、西南日本と東北日本の接点にあたり、ほぼ東西方向に中央構造線がとおり、その一部分である大北野-岩山断層より南側には、三波川帯の御荷鉾緑色岩類や跡倉ナツプ・秩父帯などの古期岩類から成る山地が分布し、金剛萱の山頂から遺跡のある緩傾斜地は秩父帯の分布域にあたる。

調査地の金剛萱は鎗川支流の青倉川東にそびえる標高788mの独立峰で、山頂のすぐ北側には緩傾斜地が広がって

第1表 金剛萱遺跡林道地点の調査経過

回	期間	人数	出土点数	人工品	おもな出土品
第1回	2011.9.23-25	17	21	10	石斧調整剥片, 剥片
第2回	2014.11.22-24	21	11	4	局部磨製石斧, 剥片
第3回	2015.11.21-23	37	10	6	台形石器(剥片), 石斧調整剥片, 剥片
第4回	2016.4.29-5.1	21	12	10	剥片
第5回	2016.10.29-30	9	7	5	石核, 剥片
第6回	2017.4.28-30	17	16	15	剥片
第7回	2017.10.28	6	5	5	剥片

人 点 点

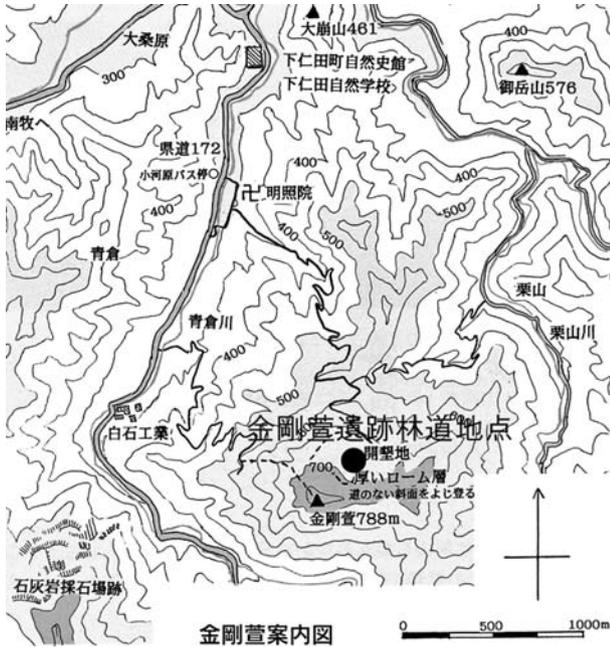
	期間	人数	場所	主な調査内容
調査	2015.4.11-12	27	金剛萱	試掘調査, ハンドオーガー調査, 地すべり調査
	2017.9.23-24	9	馬山, 町内	遺跡分布調査, 段丘分布調査

2018年2月15日受付。2018年2月26日受理。

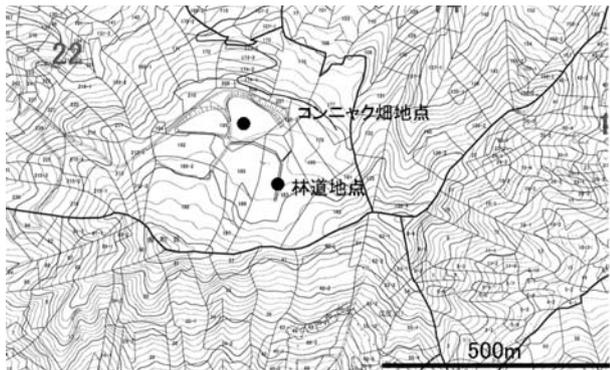
\*1 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克気付

本稿の執筆は、中村由克、麻生敏隆が担当した。

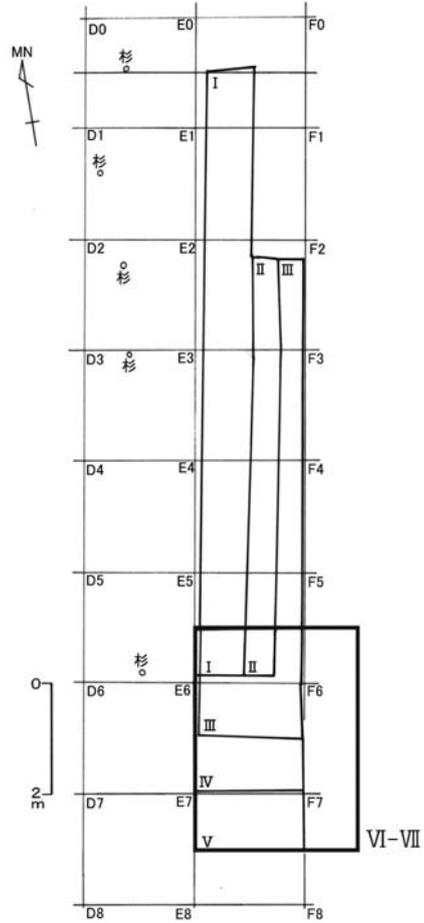
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan (naka-m@opal.plala.or.jp)



金剛萱案内図



第1図 金剛萱遺跡林道地点の位置



第2図 発掘グリッド位置図

いる。今回の発掘地・林道地点は2か所の畑地（コンニャク畑地点）よりさらに高い場所にある平坦な場所である。東西方向に延びる金剛萱の山頂部の北斜面が大規模地すべりが原因で急斜面となっている（大規模地すべり研究会 2016）が、その斜面直下に広がる平坦地の一角に当たる（第1図・第2図）。

下仁田地域で遺跡が多く立地するのは、鎭川右岸の馬山丘陵である。下仁田 IC の場所にある下鎌田遺跡から南西に長尾根遺跡、観音寺原遺跡、富士塚遺跡、米山遺跡など縄文時代と古代を中心とする遺跡がほぼ連続的に分布する。下鎌田遺跡と米山遺跡では発掘調査時に旧石器時代の遺物も少量ではあるが出土している。富岡市域にあたる鎭川左岸や丹生川流域にも縄文や平安時代の遺跡が散在する。現在までに下仁田町では、旧石器時代の遺跡は金剛萱遺跡と下鎌田遺跡、米山遺跡の3か所が知られている。

## 金剛萱遺跡林道地点の調査

### 1 調査地の状況と調査の概要

発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱1031番地にあり、針葉樹の植林のなかにある。広いコンニャク畑（コンニャク畑地点）より南側にあたり、未舗装の作業道の敷地である。この場所では作業道は原地形をかなり削って通っていて、道路面は掘削された場所で、ローム層が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しなくても目的とする AT 層前後の暗色帯が調査できる状況となっていた。

発掘地における地質層序は、地表からかなり削平されている状態で、上位より厚さ5cm黄褐色ローム層、5~14cm褐色軽石層（浅間板鼻褐色軽石：BP）、20cm黄灰色ローム層、13cm赤褐色軽石層（浅間室田軽石：MP）、15cm+黄褐色ローム層という層位である。最下位のローム層では、MP直下から10cmほどのゾーンには火山ガラスが含有され、AT層準であることがわかる。剥片等の遺物は、このAT層準付近から

下に出土している（金剛萱遺跡研究会 2017, 関東火山灰グループ 2009）。

## 2 林道地点の調査経過

**第6回発掘（2017年4月28日－30日）：**作業道がローム層まで削って作られている場所に、道路部分にそってほぼ南北方向の調査区を設定した。2016年までの発掘地を東側に1m 拡張し、E5～E7、F5～F7グリッドのなかに4m×3mの範囲内を調査した（第2図）。掘削はすべて手掘りで、遺物包含層が予測される暗色帯を掘りきるまで、遺物包含層の掘り残し部分を掘削し、無斑晶質安山岩の剥片類が集中して出土した。

**第7回発掘（2017年10月28日）：**第6回の調査区をそのまま掘り進めた。無斑晶質安山岩製の剥片が出土した。

## 3 旧石器時代の遺物

金剛萱遺跡林道地点の第6回発掘調査で出土した資料は、総数16点で、15点（第3図の1～3、7・8）は人工的な遺物である。その他に石片1点がある。第7回の発掘調査で出土した資料は、総数5点で、すべて（第3図の4～6）は人工的な遺物である。人工品としたものは、すべて無斑晶質安山岩製である。

以下は第6回・第7回の発掘調査で出土した主要な遺物を記載する（第3図）。

1は背面下部に自然面を残す、同一方向剥離の幅広の剥片である。2は縦長剥片の末端側の破損品である。3は背面に自然面を残す縦長剥片で、末端側を少し欠損する。4～7は幅広の剥片である。8は石核の調整で分割された厚手の剥片である。

いずれも節理面を思わせるような流理構造をもち、風化色は黒灰色で、新鮮面は黒色ち密な無斑晶質安山岩であり、八風山産と推定される。

おもな遺物の出土層序はATより下位の暗色帯中で、年代は約3.8～2.9万年前、群馬編年のI期からII期にかけての時期（小菅ほか 2004）、武蔵野編年のX層からVI層にかけてと比定される。

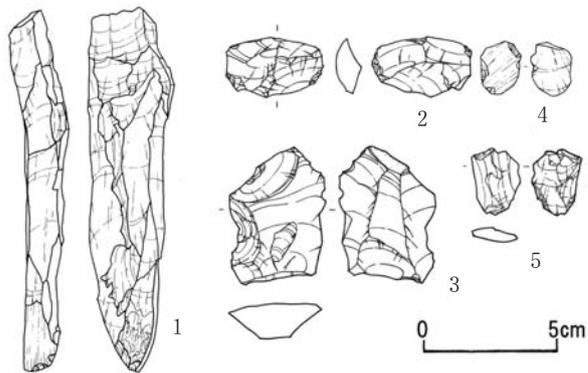
## 金剛萱遺跡第6回・第7回発掘調査の意義

林道地点第6回・第7回発掘では、第5回までに調査していた場所を掘り下げた。暗色帯中の無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロックである。このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、平坦打面による幅広ですばまりの剥片剥離がおこなわれていること、石器の完形品は1点のみでその他は剥片等であることなどの特徴がみられる。

第2回発掘では、本ブロックから約5m 北側のE3グリッド北部より局部磨製石斧（第4図1）が出土している。石斧はブロック外の単独出土であるが、本ブロック内のNo12の石斧調整剥片（第4図5）、さらに第1回発掘で両者の中間地点で同じく結晶片岩製の石斧調整剥片（第4図4）が出土しており、



第3図 金剛萱遺跡林道地点第6回－第7回発掘出土の石器



第4図 林道地点出土の主な石器（第1回～第7回）

今回の無斑晶質安山岩製石器群と同時期のものと考えられる。

第4図2は台形石器もしくは剥片である。第4図3は第5回発掘で表土中より表採された玉髓製の石核で、幅広の小剥片を剥ぐ剥離技術がうかがえることから、同時期の遺物と推定される。

また、コンニャク畑地点では無斑晶質安山岩製の基部調整のナイフ形石器1点が表面採集されており、素材は石刃であるが同時期の石器セットと推定される。

金剛萱遺跡の石器群は、始良 Tn 火山灰（AT）より以前の後期旧石器時代前半期（約3.8～2.9万年前）の時代であ

る。岩宿遺跡と同じ時期にあたり、群馬県西部から長野県東部では、甘楽町（甘楽 SA）の白倉下原遺跡、天引向原遺跡や安中市の古城遺跡、佐久市八風山遺跡群、立科 F 遺跡などこの時期の良好な石器群が出土している。金剛萱遺跡はこれらの中間を埋める位置にある。

金剛萱遺跡は、標高680m以上の独立峰の高い山の山頂近くに立地しており、このような場所にある後期旧石器時代前半期の遺跡は珍しい存在である。なぜこのようなところに遺跡があるのかは、今後とも究明すべき課題である。

## 文 献

- 大規模地すべり研究会（2016）地すべりによる金剛萱遺跡の平坦面形成。下仁田町自然史館研究報告，1，25-36。  
関東火山灰グループ（2009）群馬県甘楽郡下仁田町でみつかった下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告，13，87-93。  
小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆（2004）群馬の旧石器。みやま文

庫，175p.

- 金剛萱遺跡研究会（2016）金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告，1，1-20。  
金剛萱遺跡研究会（2017）金剛萱遺跡の旧石器文化2-2015・2016-。下仁田町自然史館研究報告，2，51-58。  
金剛萱遺跡研究会編（2014）金剛萱に旧石器時代をさぐる-金剛萱遺跡と下仁田ローム層-。下仁田自然学校文庫，8，56p。  
中村由克・保科 裕（2016）金剛萱遺跡の局部磨製石斧の石材とその意義。下仁田町自然史館研究報告，1，21-24。

## 発掘調査参加者

2017年春の調査（2017年4月28日-30日）

麻生敏隆，磯貝千恵，神戸 環，小林忠夫，齊藤尚人，篠原潤子，菅谷浩之，鈴木伸太郎，関口貴大，関谷友彦，寺尾真純，中川知津子，永井紀子，中島嘉江，中塚博子，中村由克，増岡慎弥  
以上17名

2017年秋の発掘（2017年10月28日）

麻生敏隆，岩崎正春，小林忠夫，齊藤尚人，寺尾真純，中村由克  
以上6名

## （要 旨）

金剛萱遺跡研究会（2018）金剛萱遺跡の旧石器文化3-2017-。下仁田町自然史館研究報告，3，23-26。

下仁田町青倉の金剛萱遺跡林道地点で、2017年に2回の発掘調査を行なった。この発掘で後期旧石器時代前半期の剥片などの石器が出土した。八風山産と推定される無斑晶質安山岩を主な石材としている。